

田中院長就任式

去る 2013 年 10 月 1 日 当院の新院長就任式が行なわれました。前院長、瓦林孝彦先生に引き続き、田中宏先生が、新院長として着任しました。今後も引き続き地域基幹の急性期病院として貢献してまいります。

* 田中新院長の挨拶は、次ページにて掲載しております。



緩和ケア病棟開設

当院は、地域のがん診療拠点病院として機能を強化するために 2013 年 11 月 1 日に緩和ケア病棟を開設いたしました。

“からだと心のつらさを和らげ穏やかに自分らしい生活を送れるお手伝いをします。”をコンセプトに緩和ケア認定看護師配置などの体制強化も行い、がんの患者さんのサポートを積極的に行なってゆきます。

どうぞご利用ください。



そこで、その目標として次のように考えております。まず我々は病院の本質として、安全で質の高い医療を提供する必要があります。そのためには、医療の進歩や発展に遅れることなく、情報を収集し技術の習得に努めなければなりません。また、あらゆる職種の職員が、急性期医療を担う地域基幹病院としての使命を自覚し、それぞれの領域でプロとしての誇りと優しさを大切にしながら、患者さんやご家族の視点に立った医療を提供してゆける「チーム医療」を展開することが大切であると思っています。そして、このような取り組みを通して、地域住民から愛され信頼される病院になってゆくことを目指したいと思います。それはまた、職員のさらなる意欲向上をもたらし、自己実現の場として、活気あふれた明るい夢のある職場環境へと繋げる「好循環」を引き起こしてゆくことと信じます。微力ではありますが、このような病院を目指して精一杯頑張る所存でございますので、どうか皆様のご指導ご支援を賜りますようお願い致します。

第16回 東住吉ハートカンファレンス

下記日程で開催しました。

開催日：2013/7/25(木) 19:00～21:00

場所：スイスホテル南海大阪 7階 『芙蓉の間』

【総合座長】

東住吉森本病院 心臓血管センター長・前院長 瓦林 孝彦先生

【講演】「睡眠障害と心不全」

講師：東住吉森本病院 心臓血管センター・循環器内科 部長 坂上 祐司先生

【特別講演】「糖尿病患者の睡眠障害」－睡眠障害の治療で糖尿病・肥満を改善する－

大阪市立大学大学院医学研究科 代謝内分泌病態内科学 教授 稲葉 雅章先生



第2回 大阪市南部地区緩和ケア連携カンファレンス

下記日程で開催しました。

開催日：2013/10/3(木) 17:30～19:00

場所：東住吉森本病院 6階講堂

【開会の挨拶】東住吉森本病院 看護部長 木下 千富

【座長】東住吉森本病院 4北・緩和ケア病棟看護師長 柏原 尚央

【講演Ⅰ】進行食道癌に対し食道ステントを留置した1例

～生きる望みを失った患者へのアプローチ～

講師：東住吉森本病院 緩和ケア病棟看護師 細川 亜希子

【講演Ⅱ】急性期病院における緩和ケア病棟の役割

～当院における運営方針など～

講師：東住吉森本病院

緩和ケア病棟主任（緩和ケア認定看護師） 江口 由紀

【閉会の挨拶】東住吉森本病院 がん診療センター長・院長 田中 宏先生



田中新院長 にご挨拶

2013年10月1日付けで、東住吉森本病院院長を拝命いたしました。身に余る光栄と存じますとともに、その重責に身の引き締まる思いです。もとより浅学非才ではございますが、精一杯頑張る所存でございますので、何卒よろしく願い申し上げます。

振り返りますと、私が初めて当院にお世話になりましたのは28年前のことです。大阪市立大学第2外科へ入局したばかりで、大学病院内を右往左往しながら這いずり回るような生活をしていた頃に救急当直の研修医として派遣されました。医師としての将来像は漠然としていましたが、「大学での研究者よりは、こんな病院での臨床医を目指したいなあ」という目標は抱いていました。



故森本譲会長に初めてお目にかかったのもその頃です。患者さんへ接し方や医師としての心構えなどなど、丁寧にご指導いただいた事をよく覚えています。私の臨床医としての基礎をたたきこんでいただいたのがこの病院でした。その後結局は20年以上もの間、大学病院を中心とした生活をするようになってしまいましたが、この間も学問的な基礎研究というよりは肝胆膵領域の癌に対する手術や肝臓移植といった臨床に没頭しておりました。しかし、終末期患者さんへの対応など、大学病院における癌診療の限界を感じ始めていた頃、再び故会長とお話させていただく機会ができ、「君がやりたいような医療を当院でやってみないか」と誘っていただくようになりました。新病院の開院式にも教授の鞆持ちとしてお招きいただきましたが、私自身が趣味でトランペットを吹いていることもあり、開院式でのビックバンドジャズはとても印象的でした。ジャズは会長ご自身のご趣味でもあり、行きつけのジャズバーにも何度か連れて行っていただき、即興演奏に参加させていただいたことも懐かしく思い出されます。

そんなご縁もあり、6年前（2007年）の4月に当院にお世話になることになりました。当時は4人目の副院長として迎えていただきましたが、管理職らしい仕事はほとんど免除いただき、もっぱら外科の臨床に専念させていただいておりました。そのころから、「将来の院長を考えているので、そのつもりで頑張れ」と激励いただいておりますが、昨年春に理事長職を森本義彦先生に託され、その新理事長から、この度、院長の辞令を頂戴いたしました次第です。私のような者をご信頼下さり期待をかけて下さっていたことを誠に光栄に存じますとともに、改めて心より感謝いたします。去る8月1日にご永眠されましたが、きっと天国から暖かく見守って下さっていることと思っております。

さて、早いもので、当院に赴任させていただいて6年半が経過しました。この間は本当に充実したやりがいのある毎日でした。そして、地域基幹病院としての使命を自覚するには充分すぎる期間でもありました。日本全体の医療経済が厳しい中、厚生労働省からは地域完結型医療や地域包括ケアプランが提唱され、病院機能分化や連携を重視する方針が打ち出されております。まさに当院は、東住吉区や平野区における急性期基幹病院としての役割が求められています。これは、国や行政からの要請だけではなく、医院の先生や介護事業者、そして患者さんや住民からの期待とも一致しているのではと思います。当院としましては、このような期待に答えてゆく姿勢が大切で、それがすなわち我々自身の誇りやモチベーションとなり、さらには安定した経営にも繋がるのではないかと考えています。一方では、混合診療の解禁や、TPPを意識した医療特区構想、医療ツーリズムなどの動きもあり、当然、グローバル化する医療の進歩には遅れることなく最新の医療を追求してゆく必要がありますが、当院の目指すべき方向性はあくまでも「地域に愛され信頼される病院」であると思っています。

セミナー情報

当院では定期的にセミナーを行なっております。

■東住吉地域連携 Forum ～患者様トータルサポートを目指して～

開催日：2013/11/14(木)19:00～

場 所：ホテルモントレグラスミア大阪 23階『アマリー』

【開会の挨拶】東住吉森本病院 整形外科・リウマチ科 部長 寺浦 英俊 先生

【座長】 森沢クリニック 院長 森澤 康二 先生

講演Ⅰ：『人工関節置換術のすべて』 東住吉森本病院 整形外科・リウマチ科 医長 住友 暁 先生

講演Ⅱ：『当院手外科症例の現況』 東住吉森本病院 整形外科・リウマチ科 医長 川端 確 先生

講演Ⅲ：『当院における下肢外傷の治療戦略』 東住吉森本病院 整形外科・リウマチ科 医長 大はた 武夫 先生

■第4回 南大阪末梢動脈循環セミナー

開催日：2013/11/14(木)18:30～

場 所：ホテル日航大阪 『孔雀の間』

【一般演題】 座長：東住吉森本病院 心臓血管センター 心臓血管外科 部長 南村 弘佳先生

『創傷治療の臨床』 東住吉森本病院 形成外科 部長 辻口 幸之助先生

【トピックス】 『東住吉森本病院のフットケア血管外来の現状』

東住吉森本病院 心臓血管センター 心臓血管外科 部長 南村 弘佳先生

【特別講演】 座長：東住吉森本病院 心臓血管センター 循環器内科 部長 坂上 祐司先生

『重症虚血肢に対するカテーテル治療最前線』 国立循環器病研究センター 心臓血管内科 医長 河原田 修身先生

■第6回 東住吉がん診療連携懇話会

開催日：2013/11/30(土)17:00～19:00

場 所：スイスホテル南海大阪 8階『白鳥の間』

【一般演題】座長：東住吉森本病院 肝胆膵内科部長 藪さこ 恒夫先生

○『緩和ケア病棟開設から2ヶ月の歩みと展望』

東住吉森本病院 緩和ケア病棟主任 緩和ケア認定看護師 江口 由紀

○『悪性狭窄に対する内視鏡的十二指腸ステント留置の成績』

東住吉森本病院 内科 堀田 潔先生

○『当院における閉塞性大腸癌に対する治療方針の変遷』

東住吉森本病院 外科 形部 憲先生

【特別講演】座長：東住吉森本病院 肝胆膵外科部長 清田 誠志先生

○『胆管癌診療のトピックス～印刷労働者にみられた胆管癌多発事例を含めて～』

大阪市立大学大学院医学研究科 肝胆膵外科学 病院教授 久保 正二先生

～閉会の挨拶～ 医療法人橘会・理事長 森本 義彦先生



編集後記

広報室 M

“わらすぼ”という魚、ご存知でしょうか？

有明海の干潟のみに生息するエイリアンのような風貌の魚らしいんです。

先日、その“わらすぼ”の干物を取り寄せたという好奇心旺盛な方が、周囲におりまして。。。早速、私のところへ持ってきてくれたのです。

そのルックスは、噂どおり“干からびたエイリアン”でした！！

そんな流れでアンビシャスな面々と料理して食べてみたのです。(といっても勇気を出して自宅で料理してくれてきたのは、珍味ハンターの方ですが。)

佃煮にして食べましたところ、ご飯と抜群に相性がいい。見た目、グロテスクなので食べるのを躊躇してしまいそうですが、非常においしかったです。もし機会がありましたら是非TRYされてみてはどうでしょうか？



*東住吉森本病院のホームページでも情報が日々更新されております。 <http://www.tachibana-med.or.jp>